



# せとか

(清見×アンコール)×マーコット

果樹研究所口之津の育成品種

樹勢は中、トゲの発生が見られるが、樹勢が落ち着くと少なくなる。

果実は200g程度で、果面は滑らかで果皮色は黄橙～橙色で薄く、はく皮は容易。花粉がないため、単植ではほとんど無核果となる。

成熟期は1月下旬～2月上旬、じょうのう膜が薄く、袋ごと食べられ食味がよい。ややくせのある芳香があり、人により好みが変わる。

寒害を受けにくい地帯では露地栽培が可能であるが、ハウスで外観・品質とも優れる。結実性は良好であるが、着果過多になると隔年結果するので結実管理には注意する。

全国での栽培面積は約40ha(2003年)、生産量は約100t(2002年)で、愛媛・長崎・佐賀で多く栽培されている。百貨店などの果物売り場でも見られるようになった。和歌山県内では有田や田辺で徐々に導入されつつあるが生産量はわずかである。

果実品質は、無加温ハウス(高接ぎ)で糖度11.7(Brix)、クエン酸1.08%(2006.2.3、樹上着果)。



